



世界への
プレゼントに
なろう

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

WEEKLY REPORT

No.2819 2015年10月19日

事務所 ひたちなか市海門町二丁目 8-13 ひたちなか商工会議所那珂湊支所内
 TEL.029(263)7811 例会日 毎週月曜日 12:30
 FAX.029(263)6859 例会場 常陽銀行湊支店二階会議室
 URL : <http://www.nakaminato-rc.com/>

★ 点 鐘

卯野福弥会長

ロータリーソング「奉仕の理想」

司会 奥山正紀SAA

★ 出席報告

榎木直行委員長

会 員 数	32名
出 席 者	18名
欠 席 者	12名
出席免除者	2名
メイクアップ	10名
出 席 率	93.3%

★ 会長挨拶

卯野福弥会長

5日に行われました電波時計の除幕式、創立60周年記念式典、そして記念祝賀会では、会員の皆様のご協力により無事成功裏に終えることができました。このことは、磯崎実行委員長はじめ会員すべての皆様、会員夫人、事務局のお力添えによるものと心より感謝申し上げます。これからは総務・記念誌委員会の皆さんをはじめ実行委員会の皆さんには息つく暇がありませんが、記念誌の仕事が未だ残っていますの



でよろしく願いいたします。

さて、今月は「米山月間」ということで、安藤豊美会員のお骨折りにより米山奨学生のパク・ビョンジュさん（韓国出身、茨城大学工学部4年）をお迎えしての卓話をお聞きすることになりました。

米山奨学会は、日本全国ロータリークラブ会員の寄付金を財源として、勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し奨学金を支給し支援する民間の奨学団体です。その目的としては、ロータリークラブを通して日本の文化、習慣などに触れて貰い、彼らの社会参加と社会貢献の意識を育て、帰国したら母国と日本との懸け橋となって、ロータリーの理想とす

る国際平和の創造と維持に貢献する人となっていただくことが期待されています。それでは、会員の皆様にはご静聴のほどよろしくお願いたします。

★ 幹事報告

遊座文郎幹事

本日12:00より第4回理事会を開催致しましたのでその内容をご報告致します。

① ガバナー公式訪問について

期 日 平成27年11月16日(月)

昨年は、10:00集合、10:30ガバナーご到着でしたが、ガバナーのご負担も考慮して10:30集合、11:00ガバナーご到着とします。

② 創立60周年記念式典の様子を収めたDVD

と冊子ができましたので配布します。費用は2,000円で、内1,000円はクラブから補助、1,000円は自己負担として次回会費納入時に引き落としとさせていただきます。

③ 「はまぎく」清掃作業について

期 日 11月30日 13:00～13:30(雨天中止)

今回より、湊一小児童が震災以来5年ぶりで参加協力してくれることになりました。

④ 新入会員候補者があり、後日会員の皆様にご通知致します。

★ 委員会報告

出席・ニコニコボックス委員会

榎木直行委員長

10月5日創立60周年記念式典取扱分……

基隆扶輪社会員 (29名)・安達良司・安藤豊美・藤咲久光・磯崎久喜雄・磯崎孝・海後宗郷・金子貞夫・鹿志村吉信・川崎誠・川崎通夫・菊本隆広・菊池眞一郎・黒澤利勝・峯岸邦夫・宮崎一雄・根本博・根本隆・野上哲平・奥山正紀・齋藤洋一・佐藤利昭・高田憲一郎・常盤昌敬・榎木直行・卯野福弥・遊座文郎会員 (26名)

卯野福弥会長……皆様方のご協力により電波時計の除幕式・記念式典・祝賀会を無事成功裡に終了することが出来ました。ありがとうございました。

磯崎孝実行委員長……創立60周年記念行事委員会、記念式典委員会、総務・記念誌委員会、台湾基隆扶輪社担当委員会、女性会の皆様方のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

★ 基隆扶輪社からの礼状

磯崎孝実行委員長



那珂湊ロータリークラブ

会 長 卯野 福弥様

創立60周年記念実行委員会

委員長 磯崎 孝様

拝啓 深秋の候、貴クラブますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。

先週社員皆さん無事に台湾へ帰国いたしました。この度は 貴クラブの記念すべき式典へ列席ができることを光栄なことと同時に、人々を感激させた記念式典の色々な場面を一つの思い出として、生涯忘れられないと信じております。祝賀会の無事円満に収めたことを我が事のように嬉しく思っております。

貴地滞在の短い間でしたが、皆様から心温かくしていただいたことを社員一同を代表しここにてお礼を申し上げますと同時に、両社の友好関係を大事にし、これからもお互いに切磋琢磨を積み重ねて、両地域の社会福祉や繁栄などの努力へ邁進して行くつもりでございますので、どうぞこれからもご指導、ご鞭撻をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

深まり行く秋になっておりますが、貴社の皆様お元気でお過ごしのことを祝福し、貴社ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

敬 具

2015年10月吉日

基隆扶輪社

社長 業 定 昌

★ 卓 話

「米山月間」

米山記念奨学会委員会 安藤豊美委員長

本日の卓話は、「米山月間」と言うことで、米山奨学生のパク・ビョンジュさんをご紹介します。パクさんは大変な苦労人として、日本に在住して6年になりますが、3年間はアルバイ



トをしながら学費を稼いで、やっとこの1年間だけ米山奨学生として茨城大学で勉学に励んでおり、現在4年生に在学中です。その結果が報いられ素晴らしい就職先に内定しておりましたところ、このほど就職が決定し二重の大喜びだそうです。それではよろしく願いいたします。

米山奨学生 パク・ビョンジュさん
(韓国出身)



茨城大学工学部知能システム工学科のパクビョンジュです。私は韓国からの留学生で、美人とりんごで有名なテグ市出身です。テグはソウルとプサンの次に大きい都市です。

私が日本の留学を決めたのは兵役後自動車部品工場アルバイトしていたころです。アルバイトを始めて数ヶ月後に気づいてショックを受けたことがあります。それは工場で使われている工具や生産ラインの機械がほとんど日本の製品であることでした。特にミクロン単位の精密な加工をする機械はすべて日本の機械でした。韓国の機械より価格が高いけど、精密な部品を作るために日本の機械を使うことでした。工場でのアルバイト経験から日本の機械技術に興味を持つようになりました。特に産業用ロボットに興味を持って、日本の大学で勉強したいと思いました。

日本の大学への進学を決めたけど、日本語を全く分からなかったので、まず東京の日本語学校で日本語の勉強を始めました。2年間日本語の勉強と大学の受験勉強をして2012年に茨城大学

工学部知能システム工学科に入学しました。知能システム工学科何を勉強する学科ですかと聞かれたことが多いです。知能システム工学科は「機械工学」と「情報工学」の両方にまたがる複合・融合分野の学習、研究を行う学科です。専門科目から見ると機械工学・生産加工学・情報工学の3つの分野を学習しています。学部3年次の工学実験で作ったライトレースロボットに知能システム工学科で勉強していることが全部入っています。ロボットの設計から車体の加工や電気回路の製作、プログラミングを組むことまで全ての過程を組み合わせることで完成しました。

3年次の後期に受けた専門科目の影響でデータ分析にたいへん興味を持つようになりまして、4年次は情報系の研究室への進学を決めました。それで、今年の4月から「知能数理工学研究室」に配属され、卒業研究をしています。「金融市場におけるジャンプが予測モデルの構築に与える影響」という研究テーマで、適切な株式投資戦略を立てるための研究をしています。データ分析に関する研究はいい結果が得られないときも多く大変だと思いつつも、楽しく研究生活をしています。

今年の前期は卒業研究とともに就職活動もしました。日本の就職活動についての理解度が低くて失敗を繰り返しました。失敗の繰り返しばかりでしたけれども失敗の経験から日本の社会について色々分かるようになりました。また、失敗しても諦めることなく挑戦し続けることで大人としても成長できたと思います。半年間就職活動を頑張った結果、ついに内定が決まりました。

内定先は総合電子部品メーカーであるアルプス電気株式会社です。今はデータ分析やプログラミングに興味があつて情報工学に関する勉強・研究をしています。やはり就職してやりたい仕事は日本留学のきっかけである産業用の機械を作ることです。入社後は自動機設計などの生産・製造技術に関する仕事をしたいと思います。

日本語学校2年、大学4年で日本留学6年目です。6年間楽しいことがあれば辛いこともたくさんありました。今年はロータリー米山記念奨学会のお陰で楽しいことがたくさんあった年です。大学生活はもちろん内定が決まることまでロータリー米山記念奨学会が私を支えてくれて、いつも感謝しています。残り半年の学生生活も有意義な生活を過ごします。ありがとうございます。

基本の樹 ようこそロータリーへ

◇ 米山奨学生 (Yoneyama Scholars)

日本のロータリーが世界に誇る奨学制度、「(財)ロータリー米山記念奨学会」。10月は、日本独自の特別月間として米山月間も指定され、新会員の方も「よねやま」という名称は耳にされたことがあるでしょう。2月の世界理解月間にちなみ、戦後60年余が過ぎましたが、世界平和を願って日本ロータリアンがはぐくんだ奨学制度について、ご紹介します。

◇ 世界平和を願って

1952 (昭和27) 年12月、東京ロータリークラブの会員により、1つの奨学事業の構想が立てられました。奨学事業を通じて、世界に“平和日本”の理解を促す願いを込めようと海外、特にアジア地域の優れた学生を支援する奨学団体をつくろう、という構想でした。

1945 (昭和20) 年、日本は第2次世界大戦の敗戦国となりました。1956 (昭和31) 年には、『経済自書』の中で「もはや戦後ではない」と記されますが、戦後10年余、日本は復興途上にあり、悲惨な戦争の記憶もまだ身近に色濃く残っていたころでもありました。

平和を希求する思いが強く満ちていたこの時代を背景に、日本のロータリークラブの創始者・米山梅吉 (1868 ~ 1946) を記念し、何らかの有益な事業が起こせないか、という胎動が東京ロータリークラブで起きました。生前の彼は大変な平和愛好者であり、青年に援助の手を差し伸べていたことで知られていました。そのような彼に敬意を表し、奨学事業の名を「米山基金」として、1953年、外国人留学生への支援制度が発足したのです。

東京ロータリークラブ独自の活動であった「米山基金」は、東京RC会員や関係会社からの募金により、3人の奨学生を世に送り出しました。第1号奨学生は、タイから選ばれたソムチャード氏。彼は東京大学で学び、帰国後タイの蚕糸局に入局、タイシルクという国幹産業の繁栄に寄与し、大活躍したそうです。

◇ 月に煙草一箱を節約して

東京RCの事業「米山基金」は、1956年の第60・62地区大会決議文では「ロータリーの国際奉仕として最もふさわしい企画」とされ、日本国内全クラブの合同事業として、成長していきます。「月に煙草一箱を節約して」というスローガンで全国に寄付が呼びかけられ、1957年には、全国規模のロータリー米山奨学委員会が組織されました。翌年には新組織のもと、全国の大学から8人の奨学生が採用されました。

1967 (昭和42) 年には文部省 (現・文部科学省) の認可を受け、「(財)ロータリー米山記念奨学会」となり、勉学・研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として奨学金を支給し支援する、民間の奨学団体として動き始めたのです。設立以来、累計で奨学生数は13,000人を超え、国籍別では106か国となっています (2006年7月現在)。現在では、事業規模・採用数とも、日本国内で民間最大の奨学団体となっています。

◇ このような奨学生を求む

(財)ロータリー米山記念奨学会では、将来母国と日本との懸け橋となって、国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。「優秀」とは、(1) 学業に対する熱意や優秀性、(2) 異文化理解、(3) コミュニケーション能力への意欲や能力に優れていること、この3点です。

奨学生の募集と選考は、「指定校・大学 (学校) 推薦制度」によっています。この制度は、各ロータリー地区の選考委員会が大学 (学校) を指定し、各指定校から学内選考で選ばれた申込者を、各地区の選考委員会が選考するシステム。応募学生は在籍する学校での選考と、ロータリーの地区選考委員会による選考の、2段階の選考を受けることになります。指定校は地区選考委員会で毎年協議され、結果は8月中旬ごろ米山奨学会ホームページに掲載されます。

(中略)

詳細は、(財)ロータリー米山記念奨学会のホームページ www.rotary-yoneyama.or.jp をご覧ください。

倉沢修市ガバナー 公式訪問日程

11月16日

初心にかえり新たなる一歩を



「出席はロータリアンの3大義務の1つです」